

A brown and white dog, possibly a Cavalier King Charles Spaniel, is sitting in a field of yellow flowers. The dog is looking up and to the left, wearing a blue and white polka-dot bandana. The background is a soft-focus field of yellow flowers.

2026年3月期 決算補足 説明資料

5月12日



anicom

アニコム ホールディングス株式会社

証券コード: 8715

全 体 目 次

- 1 | 2026年3月期 決算概要
- 2 | 2027年3月期 損益計画、および中期経営計画の進捗状況
- 3 | APPENDIX

1 | 2026年3月期 決算概要

1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)
2. 損益計算書 サマリー
3. 経常費用・利益のパラメータ
4. 経常利益の増減要因(対前年度差分析)
5. 貸借対照表 サマリー
6. 重点施策の進捗状況
 - (1)保険事業・資産運用・その他
 - (2)シナジー創出事業①
 - (3)シナジー創出事業②
 - (4)サステナビリティ



1. 全体サマリー(経常収益・経常利益)



経常収益

73,846 百万円

前年度比**9.1%増**(6,163百万円増) 計画対比**1.2%増**(846百万円増)
うち、保険引受収益は前年度比8.9%増(5,241百万円増)

のれん償却前 経常利益

3,801 百万円

前年度比**26.8%減**(1,390百万円減)

経常利益

3,543 百万円

前年度比**28.3%減**(1,398百万円減) 計画対比**7.4%増**(243百万円増)

順調な新規契約獲得と周辺事業の拡大を図りつつ着実に増収
他社契約移管コストおよび事業投資の発生も予定通りに推移し、年間計画を達成

■ 経常収益

- ペット保険の新規契約件数は**26.6万件**、同保有契約件数は**139.2万件**(8.1%増)と**引き続き伸長**
- 保険事業以外の、その他経常収益は**8,103百万円**(12.0%増)と**順調に拡大**
- 資産運用収益は**1,640百万円**(3.4%増)となり、不透明な市場環境下で機動的な資産運用を図り、**計画を上回る着地**

■ 経常利益

- アクサダイレクト契約移管コストおよびJARVIS Tokyoへの投資により**減益となりつつも、計画を達成**

2. 損益計算書 サマリー



(百万円)

	25年3月期	26年3月期	対前年比 増減率
経常収益	67,683	73,846	9.1 %
保険引受収益	58,862	64,103	8.9 %
資産運用収益	1,586	1,640	3.4 %
その他経常収益	7,235	8,103	12.0 %
経常費用	62,742	70,303	12.1 %
保険引受費用	41,928	46,620	11.2 %
・正味支払保険金	(33,345)	(37,213)	11.6 %
・損害調査費	(1,122)	(1,256)	11.9 %
・諸手数料及び集金費	(5,235)	(5,844)	11.6 %
・支払備金繰入額	(286)	(583)	103.8 %
・責任準備金繰入額	(1,937)	(1,721)	△ 11.1 %
(うち未経過保険料)	(1,788)	(1,553)	△ 13.1 %
(うち異常危険準備金)	(148)	(167)	12.8 %
資産運用費用	263	27	△ 89.5 %
営業費及び一般管理費	17,857	20,706	16.0 %
その他経常費用	2,693	2,949	9.5 %
のれん償却前経常利益	5,191	3,801	△ 26.8 %
経常利益	4,941	3,543	△ 28.3 %
純利益	3,246	2,204	△ 32.1 %

2. 損益計算書 サマリー



(参考)アニコム損保 保険重要指標

	25年3月期	26年3月期	(百万円) 対前年比 増減率
既経過保険料	57,341	62,808	9.5%
発生保険金(損害調査費含む)	34,755	39,053	12.4%
E/I損害率①	60.6%	62.2%	1.6pt
既経過保険料ベース事業費率②	32.3%	32.8%	0.5pt
(内、諸手数料及び集金費率)	(9.6%)	(9.8%)	(0.2pt)
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)①+②	92.9%	95.0%	2.1pt

26年3月期 期初目標	
E/I損害率	61.1 %
既経過保険料ベース事業費率	33.6 %
コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	94.7 %

3. 経常費用・利益のパラメータ

※販管費率、経常利益率(連結)

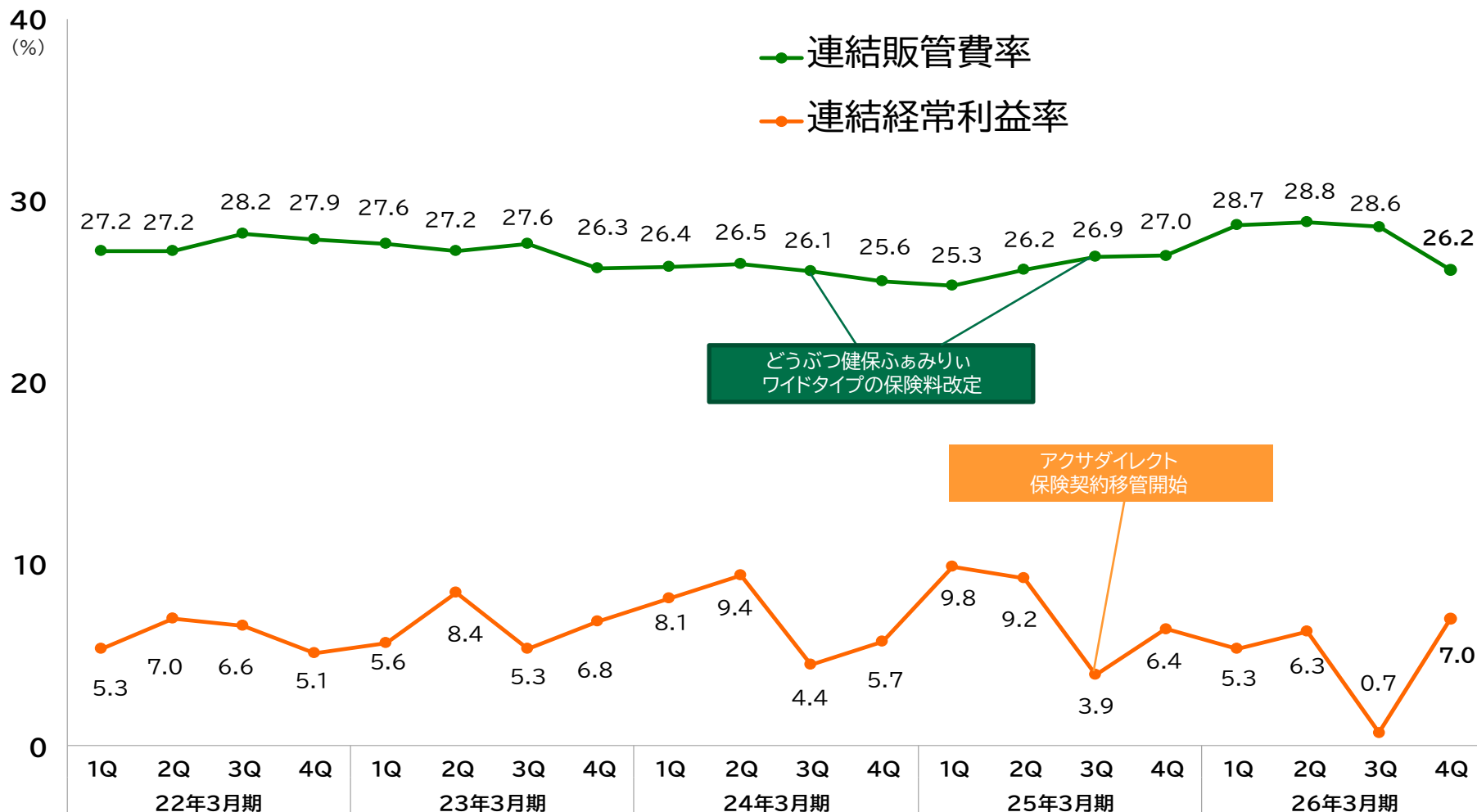
決算概要

計画と進捗

APPENDIX



※ アニコム損保単体の経営パラメータ(損害率・事業費率・契約件数)はAPPENDIX参照



4. 経常利益の増減要因(対前年度差分析)

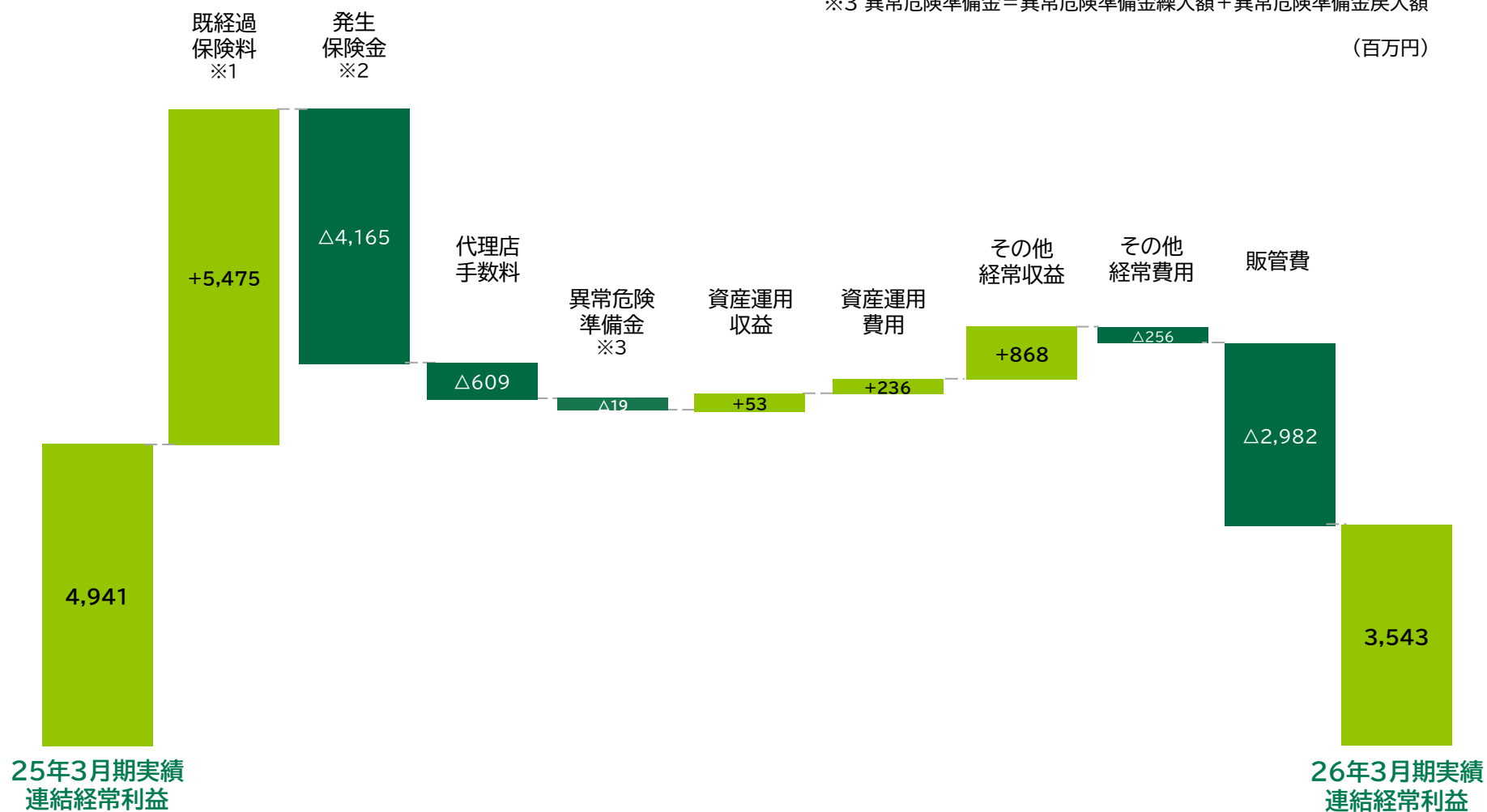


※1 既経過保険料＝保険引受収益－普通責任準備金繰入額(未経過保険料)

※2 発生保険金＝正味支払保険金＋支払備金繰入額

※3 異常危険準備金＝異常危険準備金繰入額＋異常危険準備金戻入額

(百万円)



5. 貸借対照表 サマリー



(百万円)

	25年3月期末	26年3月期末	対前年末比 増減率
資産合計	72,494	76,693	5.8 %
現金及び預貯金	26,460	13,392	△ 49.4 %
有価証券	29,430	42,631	44.9 %
固定資産	7,014	10,077	43.7 %
その他資産	9,588	10,592	10.5 %
負債合計	44,427	47,751	7.5 %
保険契約準備金	26,774	29,080	8.6 %
うち支払備金	3,532	4,116	16.5 %
うち責任準備金	23,242	24,964	7.4 %
社債	10,000	5,000	△ 50.0 %
その他負債	7,653	13,670	78.6 %
うち借入金	115	5,105	— %
純資産合計	28,066	28,942	3.1 %
株主資本	30,132	30,700	1.9 %
評価・換算差額等	△ 1,916	△ 1,608	— %
その他	△ 149	△ 149	— %
負債・純資産合計	72,494	76,693	5.8 %

6. 重点施策の進捗状況 (1)保険事業・資産運用・その他



保険事業

新規・保有契約の状況

新規契約獲得件数は、四半期単位6.0万件で高水準を維持
26年3月末の保有契約件数は139万件を突破

アクサダイレクトからの 契約移管が完了

24年12月より移管が開始され、25年11月完了

決算期	移管契約数	移管手数料
25年3月期	約1.1万件(実績)	約5.5億円(実績)
26年3月期	約2.2万件(実績)	約11.2億円(実績)
合計	約3.3万件(実績)	約16.7億円(実績)

商品・サービスの拡大

「どうぶつ健活」の堅調な増加が寄与し、
継続率は88.5%と安定して高いレベルで推移

資産運用

柔軟かつ機動的な資産運用により、計画を達成

インカム収益を着実に積み上げながら、当初計画を上回る資産運用益を確保

その他

「従業員一人一特許戦略」の推進 26年3月末 発明者数153名

【分野別 特許件数】※26年3月末時点

	画像認識 AI	遺伝子 フード・ 腸内細菌叢	再生医療	その他	合計
特許 件数	11	10	2	3	26

6. 重点施策の進捗状況 (2)シナジー創出事業①



産まれる前から

川 上



ブリーディングサポートの強化

動物愛護法の改正も踏まえ
各施策を強力に推進中

マッチングサービス事業の強化

『みんなのブリーダー』 『みんなの子猫ブリーダー』
犬猫累計成約数45万件突破
引き続き、犬・猫と顧客およびブリーダーとのマッチングを
強化し、価値ある出会いの創出を推進する

マッチングサービス事業 25年度業績

■売上高 : 2,270百万円(前年度 2,240百万円)
■経常利益: 103百万円(前年度 239百万円)

注)売上高は外部売上、経常利益はのれん償却後

成約数はほぼ計画通りに推移。WEB広告費の増加や、成約単価の微減により減益。今後はマッチング効率の改善やオフライン集客チャネルの開拓に取り組む。

日々の暮らし

川 中



健診+口腔・腸内ケア商材の拡販

インターペット2026出展を通じ
商品認知の拡大および顧客接点を強化



健康イノベーション事業 25年度業績

■売上高 : 573百万円(前年度 346百万円)
■経常利益: △308百万円(前年度 △132百万円)

注)売上高は外部売上

ECチャネルの販路拡大も含め、売上拡大。一方、販路拡大のための販促費は増加。今後は主力となる商材とチャネルに注力。

治らないを治す

川 下



動物医療関連 (予防～一般・高度医療)

『JARVISどうぶつ医療センター Tokyo』
診療件数(二次・夜間救急)、堅調に推移中



動物病院運営事業 25年度業績

■売上高 : 2,401百万円(前年度 2,169百万円)
■経常利益: △717百万円(前年度 △28百万円)

注)売上高は外部売上、経常利益はのれん償却後

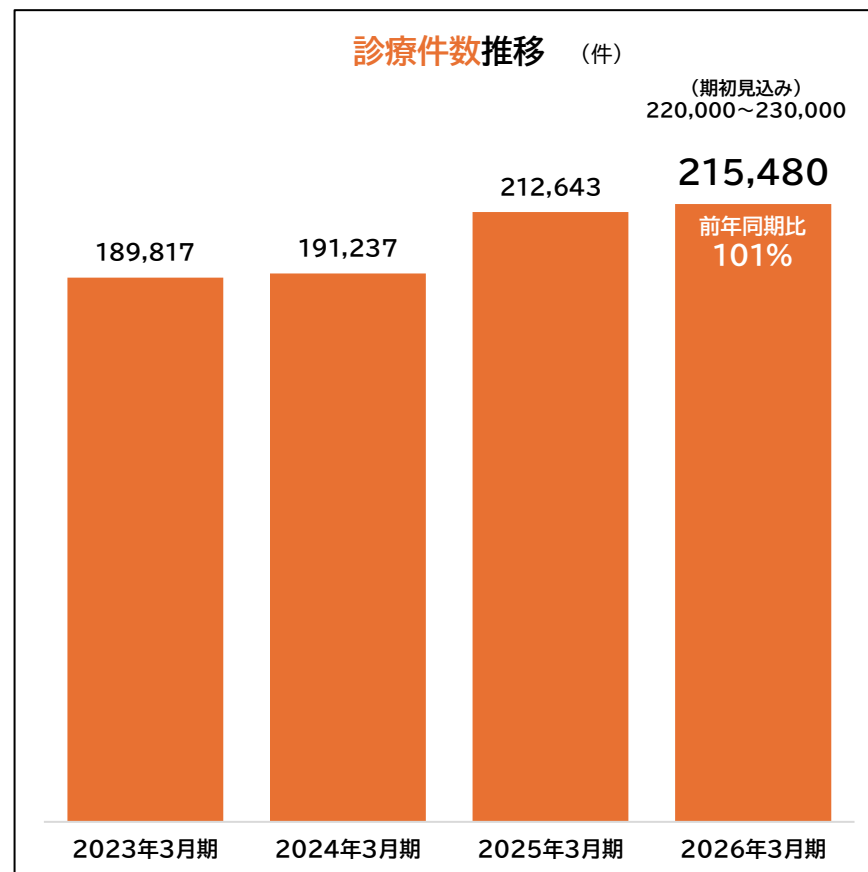
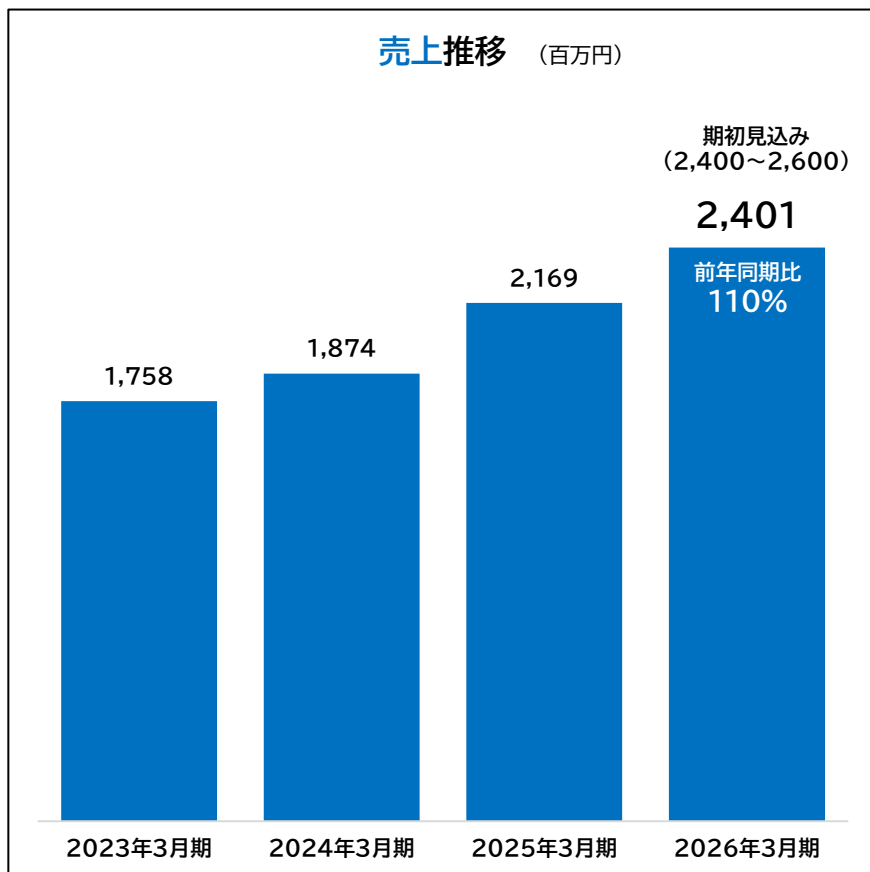
JARVIS Tokyo開業により売上伸長、費用増加。既存病院は閉院や事業縮小により、ほぼ横ばい推移。今後はJARVIS Tokyoを中核として収益化を目指す。

6. 重点施策の進捗状況 (3)シナジー創出事業②



●動物病院運営事業主要KPI

「JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo」が業績成長を牽引し、売上は前年比110%を達成。
症例数の増加および高度医療ニーズの取り込みにより、今後も拡大を見込む。

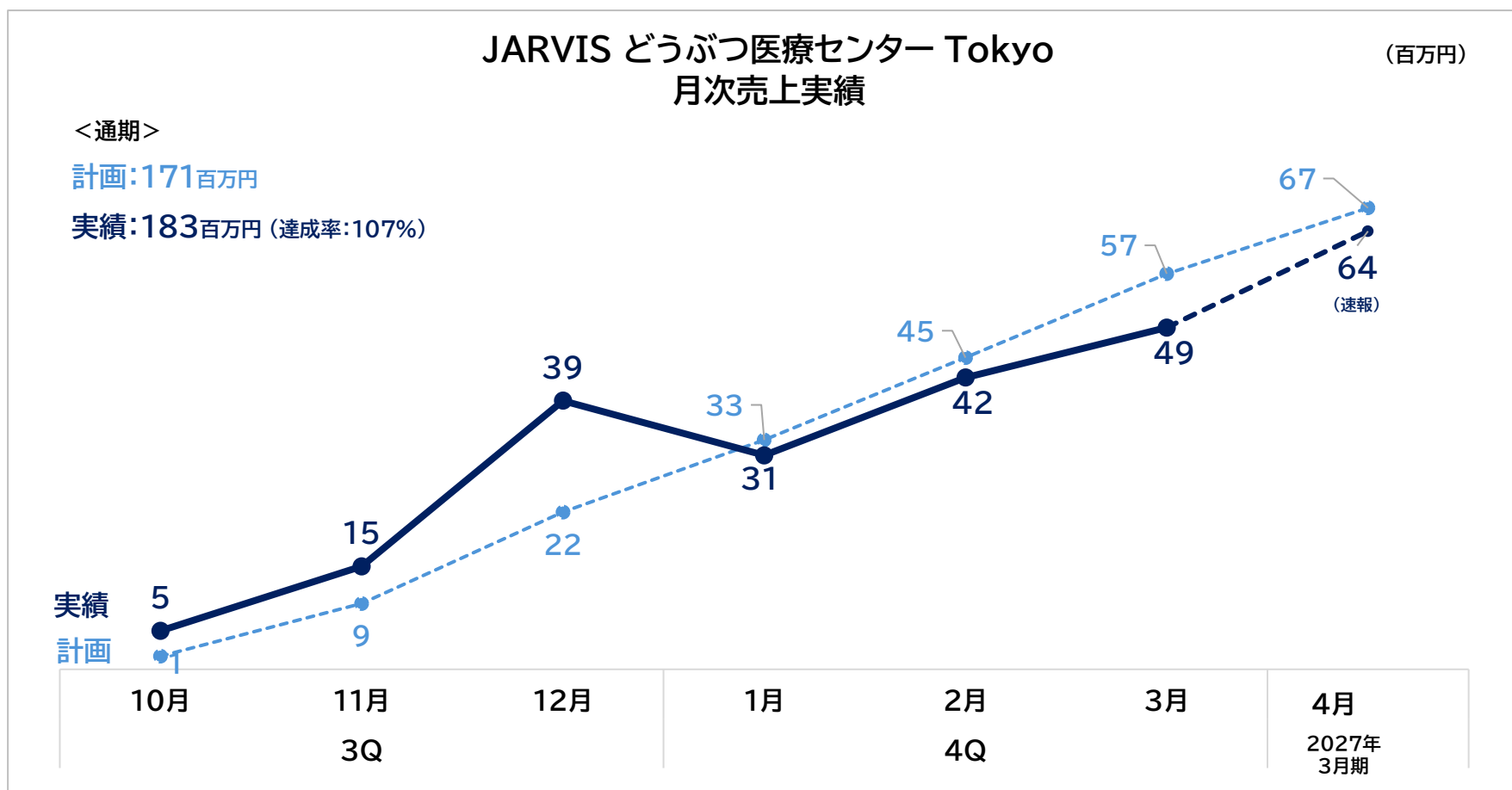


6. 重点施策の進捗状況 (3)シナジー創出事業②



●JARVIS どうぶつ医療センター Tokyo

高度医療需要の拡大を背景に、通期売上は計画対比107%を達成。



6. 重点施策の進捗状況 (3)シナジー創出事業②

決算概要

計画と進捗

APPENDIX

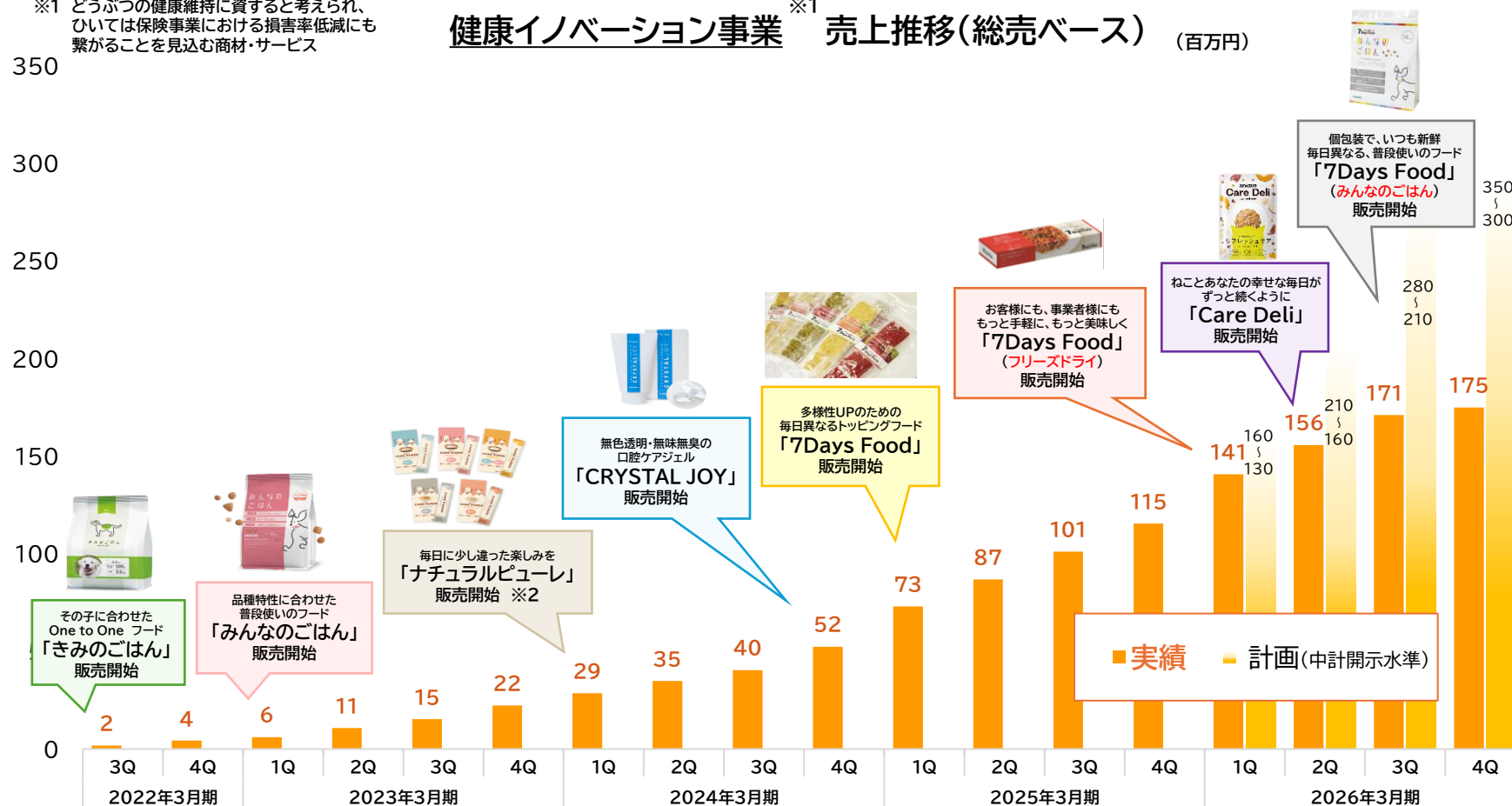


●健康イノベーション事業主要KPI

ECチャネルを含む販路拡大により売上は伸長。一方で、販路開拓および顧客基盤拡大に組織リソースを重点投下し、計画対比では未達となった。今後は主力商材および重点チャネルへの集中を進め、更なる成長を図る。

※1 どうぶつの健康維持に資すると考えられ、ひいては保険事業における損害率低減にも繋がることを見込む商材・サービス

健康イノベーション事業^{※1} 売上推移(総売ベース) (百万円)




※2 現在は販売終了しており、「CARE PUREE」としてリニューアル。

6. 重点施策の進捗状況 (4)サステナビリティ



経済的価値と社会的価値を創造するサステナビリティ経営に向けた取り組みを推進

	取り組み内容	関連データ ※1	25年3月期	26年3月期
人	■ダイバーシティ ・多様な人材が最大限能力を発揮できるよう女性活躍を推進するとともに、男女問わず積極的な育児休業取得を推奨 ■定着率向上 ・組織への貢献意欲向上に向けたエンゲージメントスコアの継続的測定・分析 ・自発的離職率10%(2030年度目標)に向けた企業価値の持続的成長を推進 ■DX育成投資 ・積極的な研修費用の投資により価値創造を担う人材育成の強化	従業員女性割合(%)	63.8	63.3
		女性管理職割合(%) ※2	36.5	36.5
		男性育休取得率(%)	69.0	81.0
		発明者数(累計)(名)	144	153
		自発的離職率(%)	14.9	13.8
		従業員1名あたり平均研修費用(円)	16,178	16,886
どうぶつ	■殺処分ゼロ ・保護犬猫シェルター「ani TERRACE」や保護団体への譲渡会  ■健康 ・疾患の早期発見に向けたどうぶつ健活(腸内細菌叢検査)を推進	hugU譲渡件数(件)	4,910	5,667
		譲渡会支援回数(回)	17	5
		保護犬猫譲渡頭数(頭) ※3	69	25
		どうぶつ健活申込数(件)	242,420	258,626
環境	■気候変動 ・Scope1+2の実質温室効果ガス排出量を指標として定め、開示 ・再生可能エネルギーの使用比率100%を達成 ・Scope3を含む総排出量を2030年までに2020年度比で50%以上削減し、2050年までにカーボンニュートラルを達成	Scope1排出量(t-CO ₂)	180 ※7,8	173 ※7
		電力使用量(千kW) ※4	2,625	3,196
		再生可能エネルギー使用量 ※5	2,666	3,276
		Scope2排出量 ※4,6(t-CO ₂)	0 ※9	0 ※9
		従業員1名あたり排出量 Scope1※7+2※4,6(t-CO ₂)	0.18 ※8	0.17

※1 算定対象は当社及び連結子会社 ※2 管理職の定義は「部下を持つ職務以上の者、並びに部下を持たなくともそれと同等の地位にある者」で「役員」を除く ※3 譲渡会支援での譲渡頭数を含む ※4 一部暫定値を含む ※5 再生エネルギー由来電力および非化石証書 ※6 マーケット基準 ※7 2024年度に社用車から排出されたCO₂をJ-クレジットを活用して全量オフセットし、カーボンニュートラルを達成 ※8 株式会社フローエンスを除いた推計値 ※9 再生エネ分控除後

2 2027年3月期 損益計画、 および中期経営計画の進捗状況

1. 当社のグループ戦略と重点施策
2. 2027年3月期 損益計画
3. 中期経営計画の進捗状況
4. 資本政策・株主還元



1. 当社のグループ戦略と重点施策



どうぶつの一生を豊かで健康にする為の「**入って健康になる保険**」を実現

強みの『ペット保険事業』

- ・予防型保険 アニコム の独自性を追求し差別化
- ・窓口精算システムによる高い顧客利便性と業務効率
- ・全国をカバーする営業力と多様な販売チャネル
- ・豊富なデータの解析による新たな健康延伸サービス等の価値創出
- ・多様な専門人材の積極的な登用



外部環境

- ・コロナ禍における特需的な飼育需要は落ち着きを見せるが、引き続き堅調
- ・大手企業等の相次ぐペット保険業界への参入
- ・動愛法規制強化後、ブリーダーとペットショップの業態融合による流通革命の加速
- ・動物病院の通院頻度の増加と診療費単価の上昇

どうぶつのライフステージに寄り添った『シナジー創出事業』

川上



・ブリーディング事業



・マッチングサービス事業



川中



・腸内細菌叢検査事業



・健康イノベーション事業

川下



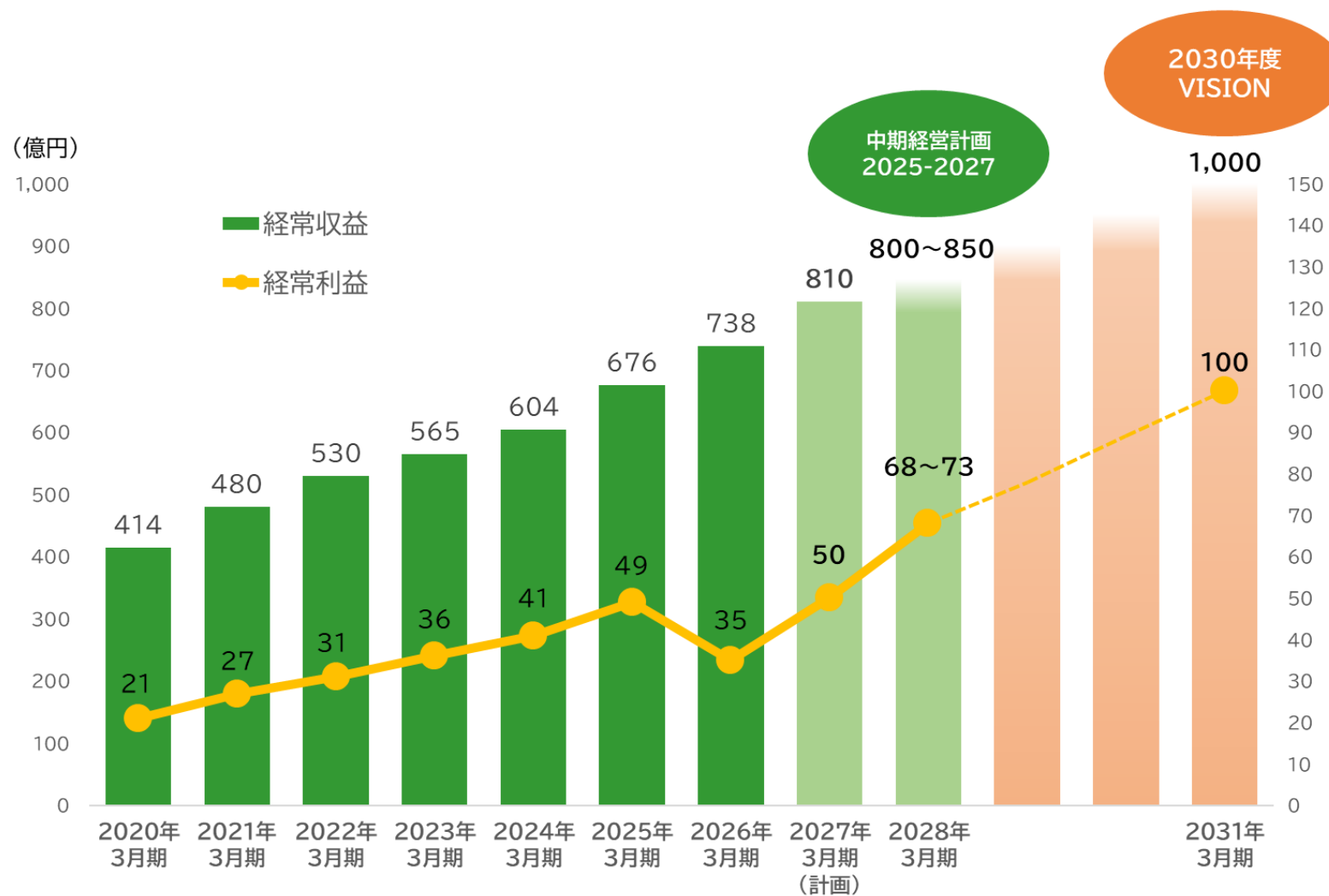
・動物病院事業



・高度医療事業

社会的価値と経済的価値の両立

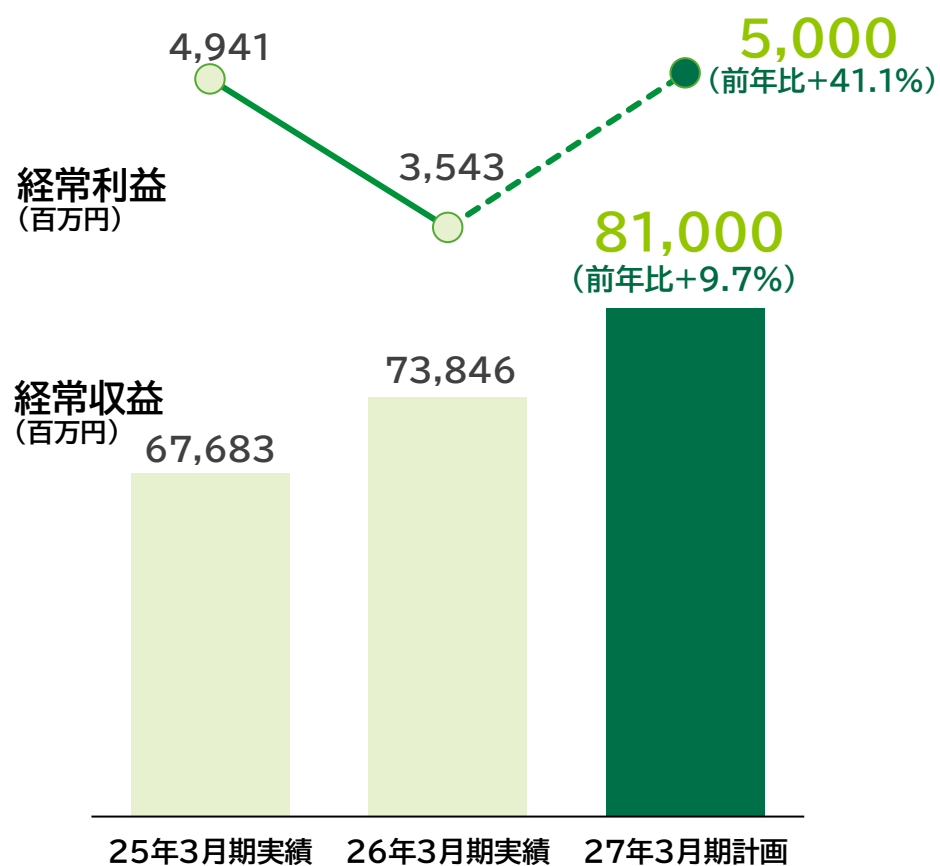
2. 2027年3月期 損益計画 (進捗推移イメージ)



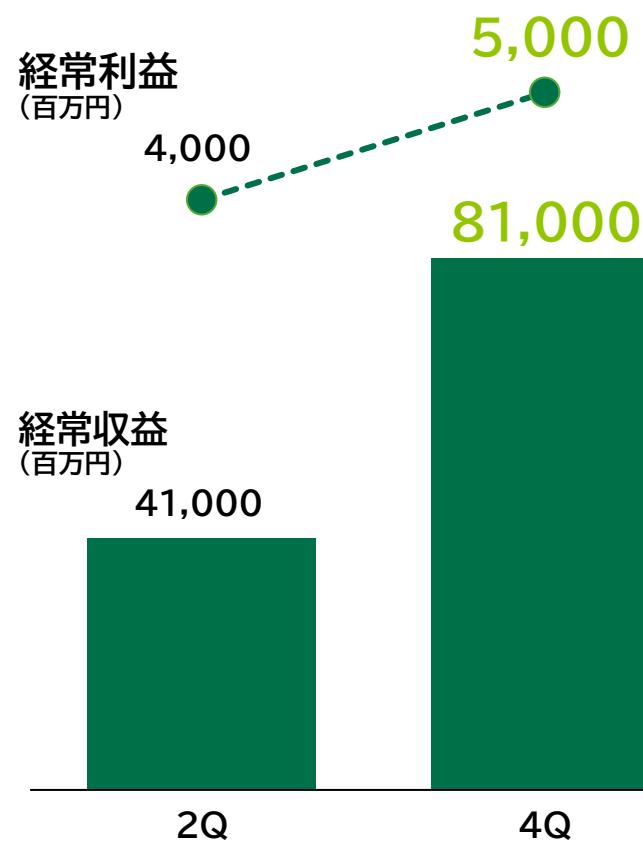
2. 2027年3月期 損益計画 (年間・半期累計)



年間計画



半期累計計画



3. 中期経営計画の進捗状況



※1 資本コスト7.0%(前年度6.6%) ⇒ エクイティ・スプレッド0.7pt
 ※2 売上高＝総売上高ベース

【主要経営数値目標およびKPI】

		26年3月期計画	26年3月期実績	27年3月期計画	中期経営計画 (28年3月期)
連結	経常収益	730億円	738.4億円	810億円	800～850億円
	経常利益	33億円	35.4億円	50億円	68～73億円
	ROE	—	7.7% ※1	—	12%水準
保険事業	損害率	61.1%	62.2%	63.4%	61～62%水準
	事業費率	33.6%	32.8%	31.6%	30～31%水準
	コンバインドレシオ	94.7%	95.0%	95.0%	92%水準
動物病院 運営事業	売上高 ※2	24～26億円	24.0億円	37～38億円	—
健康 イノベーション 事業	売上高 ※2	8～10億円	6.4億円	9～10億円	—

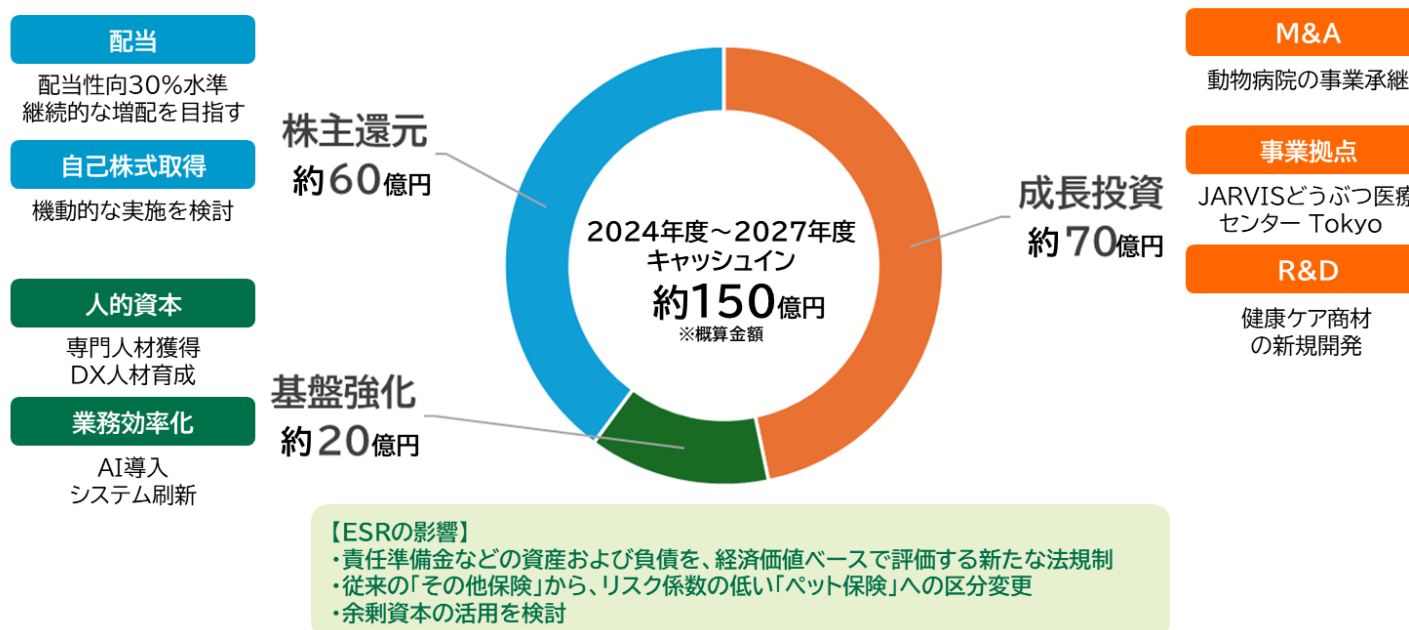
4. 資本政策・株主還元



■中期経営計画 資本政策方針

ESRを適正水準に保ちつつ、『成長投資』、『基盤強化』、『株主還元』の最適なバランスを目指す

キャッシュアロケーション



■中期経営計画 株主還元方針

- ・配当性向30%水準 26年3月期実績 30.2% ➡ 27年3月期予定 30.4%
- ・自己株式取得の機動的実施 26年3月期実績 10億円 ➡ 27年3月期予定 10億円

3 | APPENDIX

1. 主要経営パラメータ

2. アニコム損保単体：経常収益のパラメータ

（ペット保険新規契約獲得件数／保有契約件数の推移）

3. アニコム損保単体：経常費用のパラメータ

（損害率（E/I）、既経過保険料ベース事業費率）



1. 主要経営パラメータ



	25年3月期末	26年3月期末	対前年比		27年3月期末 (目標)
			件数	率	
① 保有契約数	1,287,923 件	1,392,772 件	104,849 件	8.1 %	1,470,000 件
② 新規契約数	245,741 件 (内アクサ移管分 約11,000件含む)	266,231 件 (内アクサ移管分 約22,000件含む)	20,490 件	8.3 %	260,000 件
③ 継続率	88.2 %	88.5 %	-	0.3 pt	88.6 %
④ 保険金支払件数	4,564 千件	4,872 千件	308 千件	6.8 %	5,155 千件

	25年3月期末	26年3月期末	対前年比 増減	27年3月期末 (目標)
⑤ E/I損害率	60.6%	62.2%	1.6 pt	63.4 %
⑥ 既経過保険料ベース事業費率	32.3%	32.8%	0.5 pt	31.6 %
⑦ コンバインド・レシオ(既経過保険料ベース)	92.9%	95.0%	2.1 pt	95.0 %

	25年3月期末	26年3月期末	対前年比 増減
⑧ 単体ソルベンシー・マージン比率	345.2 %	-	-

※ 新たな経済価値ベースのソルベンシー規制(ESR)への移行を踏まえ、従来開示しておりましたソルベンシー・マージン比率の本資料への掲載を取りやめております

	25年3月期	26年3月期	対前年比 増減
⑨ どうぶつ健活(腸内細菌叢検査)申込数	242,420 件	258,626 件	6.7 %
⑩ 対応動物病院数	6,964 病院	7,044 病院	1.1 %

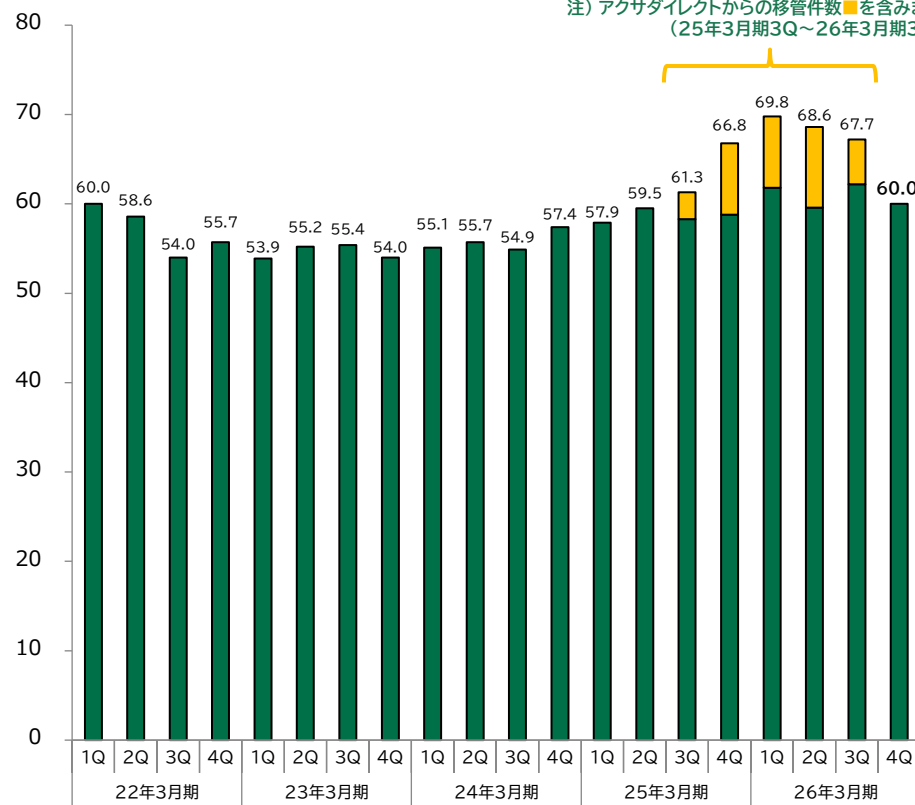
2. アニコム損保単体:経常収益のパラメータ



新規契約獲得件数の四半期推移

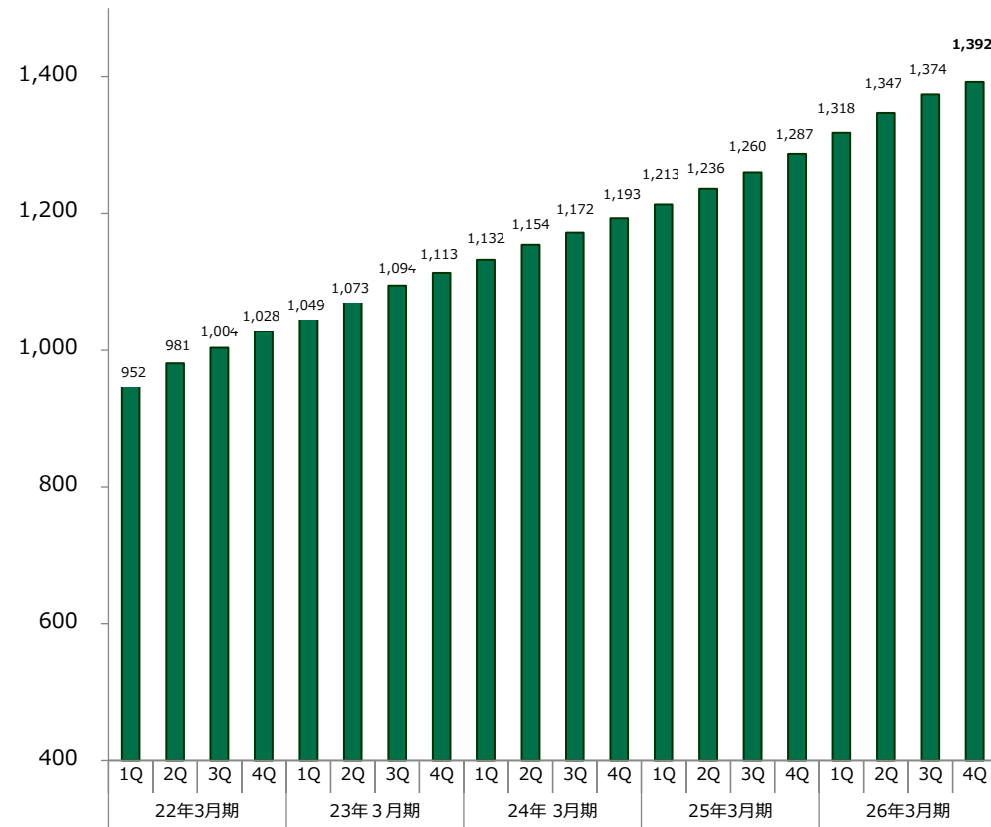
(千件)

注) アクサダイレクトからの移管件数■を含みます
(25年3月期3Q~26年3月期3Q)



保有契約件数の四半期推移

(千件)



3. アニコム損保単体:経常費用のパラメータ



【参考情報】

15年3月期 1Q

■ 保険料改定
・平均12%の改定

15年3月期 3Q

■ 限度日数付き新商品
■ 健康割増引制度導入

18年3月期 2Q

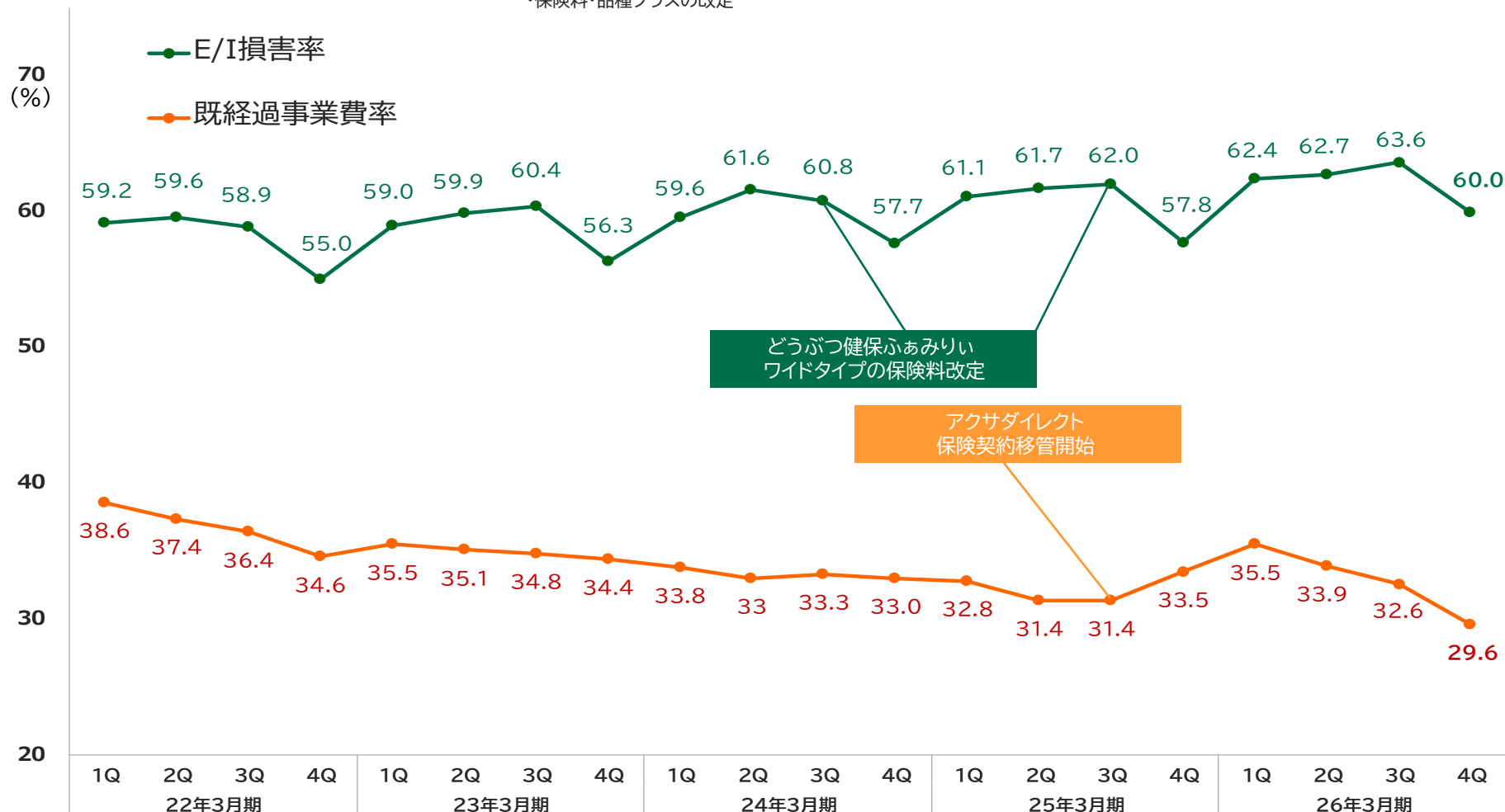
■ 保険料率改定
・8歳以上の保険料改定

19年3月期 3Q

■ 「どうぶつ健活」の導入
■ 保険料改定
・保険料・品種クラスの改定

注1) 下表は、四半期毎の平均値を記載しておりますので、当期累計平均とは異なります。

注2) 事業費率は「既経過保険料ベース事業費率」(損保事業費÷既経過保険料)を表しております。

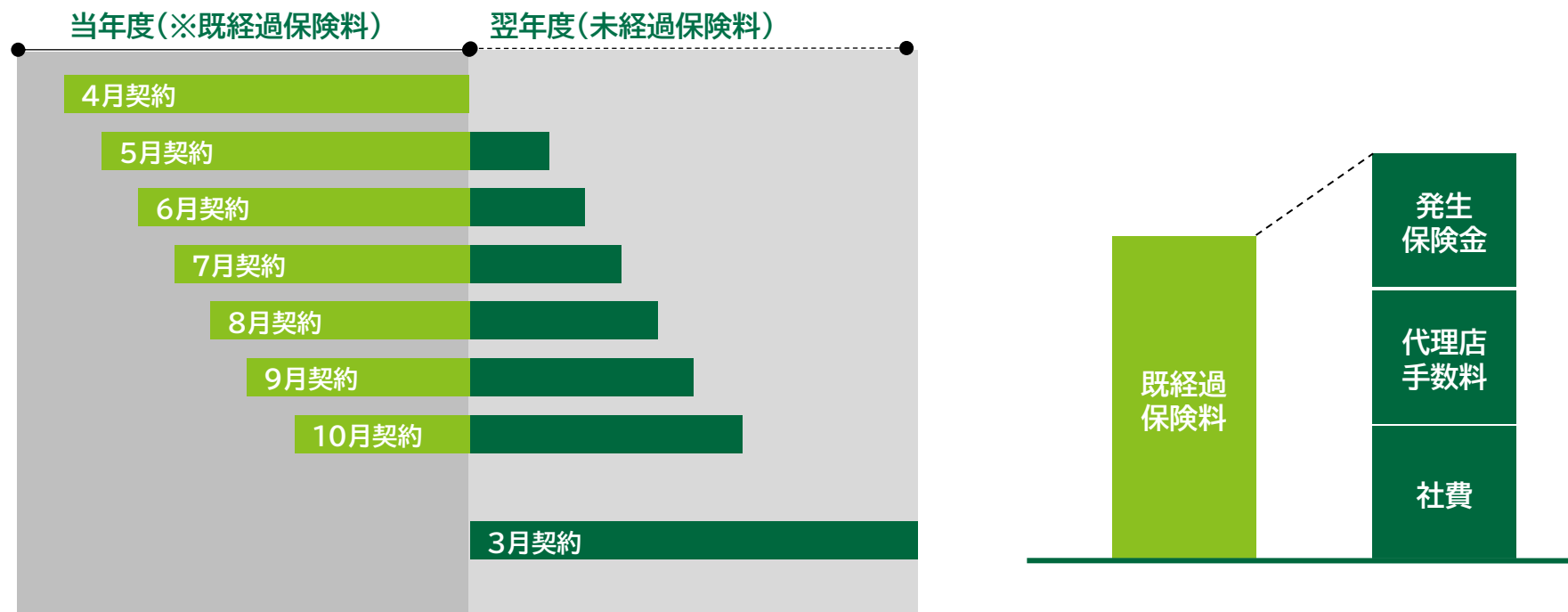


(参考) 保険会計が経常損益に与える影響



1. 保険料の増加が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

一般的に、保険料の増加は経常収益の増加に寄与しますが、事業年度における保険料の未経過期間部分については、普通責任準備金(未経過保険料)として次年度に繰り越すことが法令により定められています。一方で、発生保険金、代理店手数料、社費等の費用については、保険料の増加に対応する費用を含め、これらの費用が発生する年度において計上することとされています。したがって、保険料の増加に伴い増収となる場合であっても、当該費用が既経過保険料を超過する場合は、当該年度の経常損益にマイナスの影響を与えることとなります。



2. 異常危険準備金が経常損益に与える影響(日本の損保会計ベース)

- ・異常危険準備金は、巨大災害等が生じた場合の保険金の支払いに備えるために法令により積み立てておくこととされているものであり、各保険会社が毎期積み立てを行っているものです。
- ・異常危険準備金は、正味損害率(※)が50%を超えると取崩し(費用のマイナス)が行われます。(※)正味支払保険金を正味収入保険料で除した割合です。



お問合せ先

アニコム ホールディングス株式会社 経営企画部 (IR事務局)

東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー39階

www.anicom.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料は、現在当社が入手している情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載しておりますため、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。

これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。そのため、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なる可能性がある点をご承知おきください。従いまして、将来予想に関する記述に依拠することのないようにご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。